

有限会社 柑香園 (観音山フルーツガーデン)

ものづくり技術

フルーツとその加工品を生産販売する老舗農園 ストーリー性を持たせて消費者へ訴求

事業内容 和歌山県産の果実の直販に力点を置き、 ストーリー性を持たせた販売手法に取り組む

1911年(明治44年)に児玉吉兵衛(きちべえ)氏が柑橘類の栽培を目的に観音山を開墾したことに始まり、現代表である児玉芳典氏は6代目にあたる。

現在も果実の販売が主力事業であり、温州みかん、不知火、八朔、夏みかん、レモンといった柑橘類が売上の7割を占める。これらは自社農園で生産するほか、地元和歌山県内の農家から仕入れている。残りの3割は、果実加工品の製造・販売であり、ジュース、ゼリー、ドライフルーツ、ジャム、サイダーなど多彩に取り扱っている。

販路は、自社サイトなどのインターネット販売が主流となっており、県内の土産物店や百貨店、直営店での販売も行い、贈答品として購入されるケースも多いようだ。近年、販売面で特に力を入れていることとして、収穫から出荷までの工程を見える化し、消費者に一連のストーリーとして捉えてもらえる「果物語」(※)という販売手法を積極的に進めている。付加価値として情報をプラスすることで顧客のリピートにも繋がっている。

※「果物語」は有限会社柑香園が持つ商標

補助事業 高まる需要へ対応するため 自動化機械4台を導入

インターネットを通じた消費者への直接販売により、商品の良さを直接訴求できたことからリピート率が高まり、口コミなどもあって新規の問い合わせも徐々に増えてきている。また、100%和歌山県産の果実を使った加工品を求める地元の土産物店の引き合いも増え、新規商品を投入したわけではないにもかかわらず、売上高は順調に伸びている状況にあり、特に果実加工品の需要が高まってきている。

しかしながら、加工品は従来の「人力」に頼る製造であったため、すべての需要に応えきれず、販売機会の損失が生じていた。各工程での機械化(自動化)を進めることにより、生産量を増やすことが喫緊の課題となっていた。

そこで、今回の補助事業では、「殺菌機」、「食品乾燥

機」、「自動シーラ機(自動ラベル貼り機)」、「電動ピラー(皮むき機)」の計4機を導入することにより、生産性の向上、品質の安定化を目指した。



▲食品乾燥機

有限会社 柑香園 (観音山フルーツガーデン)

代表取締役社長 児玉 芳典
〒649-6523 紀の川市下丹生谷557
TEL: 0736-73-4095 FAX: 0736-73-3210
URL: http://www.kannonyama.com

(業種)柑橘類、他果実及び加工品の生産販売
(創業)1911年11月
(資本金)10,000千円
(従業員)38人(アルバイト含む)

成果

品質の安定化、生産力の向上 新工場の建設により増加する需要に応える

4台の設備機器を導入したが、機械に不慣れであったこともあり、温度を均一にすることが難しく、試作を重ねて安定した製品を作れるようになるまでに数カ月の時間を要した。現在は、その課題も解決できており、安定した品質のものが提供できている。

具体的な成果としては、ジャムの工程を例に挙げると、殺菌工程の時間が大幅削減、ラベル貼り工程の時間も半分以下になるなど大幅な工程時間の短縮が実現できている。そのほか、電動ピラーを導入したことにより、均一にフルーツの皮を薄く剥くことができるようになったため、フードロスの低減にも繋がっている。

ただ、設備機器を導入することによって生産能力は向上

したものの、増加する受注に生産能力が追いついていないのが現状であり、今後は近隣に新工場を建設することで、さらなる生産能力の向上を図る予定である。



▲電動ピラー

今後の展開

素材そのものの良さを活かす販売スタイルを継続 地域活性化にも貢献していく

増え続ける需要への対応は依然として課題であるものの、人材確保が難しい状況の中で、機械化(自動化)を積極的に進めていく予定である。

同社では、新たな製品を市場へ継続的に投入していくというスタンスではなく、今まで通り、果実が持つ素材そのものの良さを引き出した商品の販売を行っていく。

地方の安全・安心で、作り手の顔が見える加工品へのニーズは根強いものがある。この流れを上手く活かして、現在は7割程度であるインターネット販売による個人客向けの販売比率を、直接商品の良さを訴求することによって高

めていく意向である。

さらに自社のことだけでなく、社会貢献活動にも注力していく意向だ。具体的には、耕作放棄地解消対策としての新規就農者の研修及び独立支援、海外インターンシップ生との交流や自社農園を活用した農業体験活動などを通して、地域産業の活性化にも貢献していく。直接的な売上効果はないが、このような活動を通して、和歌山県産のフルーツを全国・海外へと発信し、和歌山県全体を盛り上げていきたいと意欲をみせる。



▲海外インターンシップ生や農業研修生と共に



▲東大みかん愛好会の方々への講義